

# 教員養成課程における音・形・色を関連づける

## 表現プログラムの研究 II

### —音（音環境）とオノマトペに関する授業内容から—

岡 林 典 子      山 野 て る ひ

#### 1. 研究の背景と目的

本研究の目的は、筆者らが携わる教員養成課程の授業「児童図工Ⅰ」と「保育内容演習（表現）」において試みている「音・形・色を関連づける表現プログラム」の内容について検討することである。

保育者が子どもの豊かな感性と表現を育むために、自身の感性を高めることが欠かせないが、加えて養成課程で専門的に学んだ各領域の基礎的な知識や技能を統合して、ねらいを明確にした活動を構成できる実践力が保育現場では必要とされる。こうした実践力は、養成課程で学ぶ学生自身が、複数の科目から得られる気づきや学びを自ら関連づけて、活動を構成する経験を重ねていくことで身につくのではないだろうか。

近年は以前に比べ総合的な表現活動に関心が向けられるようになり、養成課程においても異なる分野の連携による教育実践が試みられるようになった<sup>1)</sup>。そうした流れの中、智原ら(2016)は、科目を横断的に連携させたクロスカリキュラムでの活動が総合的な実践力養成において重要であると捉え、養成校が表現領域に関してどのような内容の授業を実施しているのかについてアンケート調査を行った。その結果より、総合的な表現活動に関心のある養成校の表現領域科目の担当者はまだ少ないことを指摘している。そして、表現の各専門領域の担当者間で共同がしづらい状況にあると推察している<sup>2)</sup>。

音楽教育と美術教育を専門とする筆者らは、約13年前から教員養成段階における資質・能力の育成や指導教材の共同開発の必要性を感じ、継続して総合的な表現教育のプログラム研究を行ってきた。昨年は山野が担当する児童学科の「児童図工Ⅰ」と岡林が担当する「保育内容演習（音楽表現）」の授業から、「日本語」と「和楽器」とを用いて音・形・

色を関連づけた内容を検討し、学生が授業体験を通して音に対する自己のイメージや感覚についての気づきを得ていることが捉えられた<sup>3)</sup>。しかし、これまで積み重ねた共同研究の知見を踏まえて試みた授業内容であったが、同一科目ではない為に、特に基礎技能などにおいて十分な連携が進められず、授業内容の更なる改善が必要であることが明らかになった。そこで今年度の「児童図工Ⅰ」と「保育内容演習（表現）」の授業では、昨年度の反省を踏まえて、科目間に共通する「音環境」「オノマトペ」などの題材に関して連携できるように授業内容を話し合い、音・形・色を関連づけたプログラムを工夫した。

学生はこれらの授業からどのような学びや気づきを得て表現を試みたのか、また、これらの授業の内容をどのように関連づけて受講したのだろうか。本年度はコロナ感染症対策のため、前期には一度も対面授業を行うことができなかった。また、後期には、初めの数回のみ対面授業が可能となった。そうしたイレギュラーな状況ではあったが、本稿では、2つの授業の繋がりを、山野の授業で提出された学生の描画作品と授業後のアンケート、および同じ学生が岡林の授業で提出した振り返りのワークシートと最終課題として作成した保育指導案などを通して考察を試みる。そして、音・形・色を関連づける表現プログラムの内容を検討する。

## 2. 研究方法

### 2.1 「児童図工Ⅰ」「保育内容演習（表現）」の位置づけ

「児童図工Ⅰ」「保育内容演習（表現）」は幼稚園免許及び保育士資格必修科目である。以下の表1に児童学科で学ぶことのできる表現領域の科目一覧をまとめた。

表1 児童学科で学ぶことのできる表現領域の科目一覧

	前期	後期
1回生	児童表現学（必）	幼児と表現（必）
2回生	児童音楽Ⅰ（必）・児童図工Ⅰ（必）	保育内容演習（表現）（必）
3回生	音楽あそび（選）・児童図工Ⅱ（選）	児童音楽Ⅱ（選）
4回生	音楽応用演習Ⅰ・おもちゃ研究	音楽応用演習Ⅱ（選）

「児童図工Ⅰ」は2年次前期に4クラスに分けて開講されており、初回オリエンテーションを除き、山野と津野充聡氏が2クラス7回ずつを担当し、矢野真氏と沖中重明氏が2クラス7回ずつを担当している。一方、「保育内容演習（表現）」は2年次後期に4クラスに分けて開講されており、各クラスを初回オリエンテーションと最終回のまとめを除いて、岡林と矢野真氏が6回ずつ担当している。

## 2.2 研究方法

本稿では 2020 年度に開講された「児童図工 I」「保育内容演習（表現）」において、「音環境」「オノマトペ」を題材とした授業内容を検討する。

具体的な研究方法は、「児童図工 I」の第 5 回の授業内容からオノマトペが物語や内容の鍵となっている絵本『おやすみなさいのおと』を用いて学生が描画した作品とアンケートについて考察する。そして、「保育内容演習（表現）」から「音環境」「オノマトペ」を題材にした第 2 回、第 4 回のワークシートの内容を取り上げ、学生の気づきや学びを考察する。さらに、2 名の学生が作成した保育指導案について、授業内容がどのように活かされているかという視点から総合的に考察を進め、「音・形・色を関連づける表現プログラム」の内容や連携の方法について検討する。

以下の表 2 に「児童図工 I」の山野担当の 7 回の内容を示す。

表 2 「児童図工 I」の山野担当 7 回分の授業内容

第 1 回	平面造形あそび 1 切り紙で飾る
第 2 回	平面造形あそび 2-1 いろいろな形の紙から（画用紙とわら半紙）
第 3 回	平面造形あそび 2-2 いろいろな形の紙から（開いた空き箱）
第 4 回	平面造形 1-1 絵の具の混色
第 5 回	平面造形 1-2 絵本から想像して描く一絵の具の混色を生かして
第 6 回	平面造形 2-1 パスの混色
第 7 回	平面造形 2-2 絵本から想像して描く一パスの混色を生かして

続いて、表 3 に「保育内容演習（表現）」の岡林担当の 6 回の内容を示す。

表 3 「保育内容演習（表現）」の岡林担当 6 回分の授業内容

第 1 回	領域「表現」のねらい：音・色・形・動きの連関した活動
第 2 回	環境を聴く一キャンパスの音聴き歩き・音日記
第 3 回	身の回りの音に気づく保育内容と教材研究一絵本『もりのおとぶくろ』を用いて
第 4 回	声と体の関わり一オノマトペの動きを感じる
第 5 回	オノマトペの動きを感じる保育内容と教材研究一絵本『かぞえうたのほん』を用いて
第 6 回	音・色・形・動きの関連する保育内容と教材研究一保育指導案の作成

### 3. 音・形・色が関連する「児童図工Ⅰ」と「保育内容演習（表現）」の授業内容

#### 3.1 絵本『おやすみなさいのおと』のオノマトペを題材とした「児童図工Ⅰ」の授業内容

ここでは、2章の表2に示した「児童図工Ⅰ」の授業から第5回「平面造形 1-2 絵本から想像して描く一絵の具の混色を生かして」の内容について、LMS に挙げたパワーポイント資料より抜粋し掲載する（図1、図2）。さらに制作課題を示す。

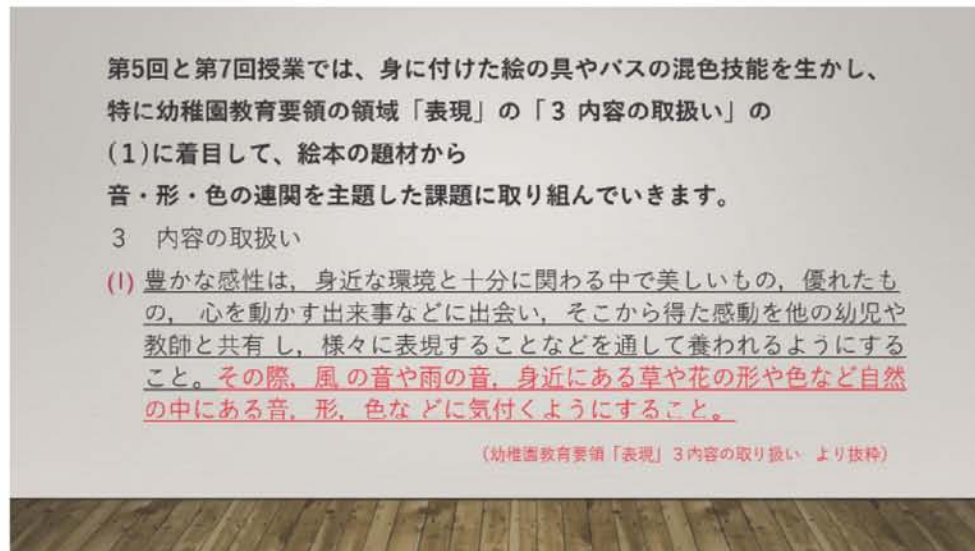


図1 山野のパワーポイント資料からの抜粋①



図2 山野のパワーポイント資料からの抜粋②

【おやすみなさいのおと】のあらすじ： 森に住むあらいぐまの 5 人兄弟が寝る用意をしていると、窓の外から色々な音が聞こえてくる。兄弟はその音が気になって眠れない。初めは「ぼとりぼとり」（どんぐりの落ちる音）。次は「がたがた ごとごと」（丸太を積んだ荷車の音）。その次は「ぎーこぎーこ」（やぎ先生が自転車を走らせる音）。さらに次は「ひゅー ひゅー」（ふくろうのお巡りさんが窓の外を通り過ぎる音）。音の正体が分かると、お兄さんたちは一人ずつ眠りにつき、最後に末っ子のおちぴちゃんだけが残されて、外から「ほとほと ほとほと」とちいさなちいさな音が聞こえてくる。おちぴちゃんがお母さんにだっこされて窓の外をみると…

### 【今回の制作課題】

絵本『おやすみなさいのおと』の最後の場面を描く

- おちぴちゃんがお母さんにだっこされて見た「ほとほと」のその外の様子（最後の場面）を想像して、八つ切り画用紙に水彩絵の具で描きましょう。（制作時間 160 分）

ねらい：音のオノマトペからイメージを広げ、水彩絵の具の混色を生かし自分の想像した場面に相応しい色彩表現ができる。

## 3.2 「音環境」「オノマトペ」を題材とした「保育内容演習（表現）」の授業内容

### ■第 2 回の授業から：環境を聴くーキャンパスの音聴き歩き・音日記（対面授業）

後期の初めは対面授業が行えたので、学生たちはマリー・シェーフアーの「サウンドスケープ」について学んでから、紙とペンを持ち、一人ずつキャンパスの音聴き歩きへと出かけて行った。設定したキャンパス内の二つのコースを、ゆっくりと音を聴きながら 40 分程歩き、教室へと戻ってきた。次回までに 3 日分の音日記をつけることを宿題とした。

### ■第 3 回の授業から：身の回りの音に気づく保育内容と教材研究（対面授業）

それぞれの学生が作成してきた音日記を一覧にして全員に配布した。次に 4 人ずつのグループに分かれ、友達の

表 4 学生の音日記の一例

・野菜を切る音（シャッ トン）	・お皿を重ねる音（カチャッ キン）
・お皿を洗う音（キュッ ジョワッ）	・洗濯機が回っている音（ドォー）
・車が走る音（ドゥー ゴー）	・メダカにエサをあげる音（パッ）
・家のドアを開める音（バン キュッ）	・子どもが外を走る音（パタパタ）
・改札を通る音（ピ）	・干している布団を叩く音（パンパン）
・歩く音（シュッ シュッ）	・体温計の音（ピピピッ）
・椅子がきしむ音（ココ）	・髪の毛をクシでとかす音（ココ）
・教科書をめくる音（スー）	・シャーペンで字を書く音（トン シュー）
・筆箱からペンを取り出す音（カチャ）	・プリンターで印刷する音（ゴーゴーゴー シュン）
・ホワイトボードに字を書く音（トントントン）	・時計の秒針の音（タンタン）
・画用紙を切る音（ジョキジョキ）	・ピアノのふたを開ける音（トン）
・テレビをつける音（チッ）	・カラスの鳴き声（アーアー）
・荷物を落とす音（ドン）	・チャイムの音（ポーンポーン）
・食洗機の音（ゴォー）	
a) 料理をする音（ドン ガチャ トントントン）	a) ラジオの音（ゴー ワー）
b) 自分の足音（コツコツ）	b) 電車の音（ゴォー ビューン）
c) 鳥のなく声（ピピッ）	c) お肉を焼く音（ジュワー）
d) 工事の音（ゴォー ドン ドカン）	d) 噴水の音（オッホーン ゴホッ）
e) 水が流れる音（サー ゴー）	e) 京都駅の噴水の音（シュワッ サー）
f) 布団が揺れる音（シュシュ）	f) 携帯を布団の上に置く音（サッ）

a) 朝起きてすぐ耳にした音、 b) 朝外に出て一番に耳にした音、  
c) 出かけた先で一番気に入った音、 d) 出かけた先で一番嫌だと感じた音、  
e) 今日一日で一番美しいと感じた音、 f) 寝る前に最後に耳にした音



音日記を見て面白いと思う音を一人が2つ以上発表し、クラス全員で共有した。表4は学生が作成した音日記の一例である。

■第4回の授業から：声と体の関わりーオノマトペの動きを感じる（オンデマンド授業）

声と体の関わりについては、「スーッ」と言いながら初めは腕を滑らかに横に動かす、次は同じオノマトペを発声しながら腕を小刻みに横に動かすという試みを行った。続いて、「スッスッスッ」と言いながら腕を滑らかに動かし、次に同じオノマトペを発声しながら腕を小刻みに横に動かすという試みを行った。これらの試みで学生は動かしやすい場合と動かしにくい場合を体験して、声と体の動きが連動していることを感じ取ったと思われる。

以下の図3～図6はオンデマンド授業用に作成したパワーポイント資料より抜粋したものである。数年前の山野の授業で、学生が数種類の雨の音を聴いて描いた描画である。上記の2つの試みに続いて、ここでは、絵から音（オノマトペ）を感じる体験を設定した。



図3 岡林のパワーポイント資料からの抜粋① 図4 岡林のパワーポイント資料からの抜粋②

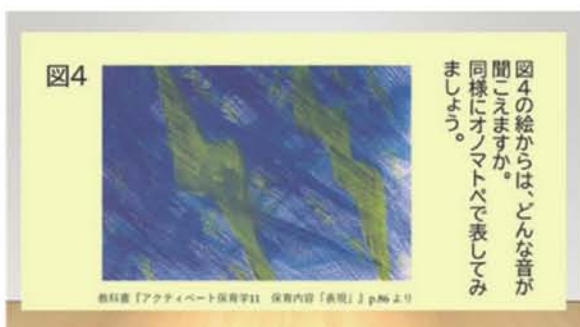


図5 岡林のパワーポイント資料からの抜粋③ 図6 岡林のパワーポイント資料からの抜粋④

#### 4. 結果と考察

学生たちは「児童図工 I」と「保育内容演習（表現）」での体験をどのように感じ、学びや気づきを得たのだろうか。また、2つの授業内容は関連付けて受講されていたのだろうか。さらに、描画や音聴きの授業体験を踏まえて、どのような保育指導案が作成されたのだろうか。

本章では、「児童図工 I」の制作課題において、学生が絵本の「ほとほと」というオノマトペからどのようにイメージを広げて描画したのか、さらに同じ学生が、「音聴き歩き」と「音日記」の体験により、どのような気づきや学びを得て保育指導案の作成に至ったのかを、提出された作品、ワークシート等から捉えたい。但し、本稿では学生の描画作品をカラーで提示することができず、色や形など詳細な表現について分析内容を伝えることが困難である。そこで描画の分析は別稿にまとめることとし、本稿では学生がアンケートやワークシートに文章で表した「ほとほと」の音から広がるイメージや、描画の体験から得た自然の音や日常音への気づき、音聴き歩きや音日記の体験から得た気づきを中心に考察を進める。学生は以下の図7のような流れで、描画から指導案作成へと至った。

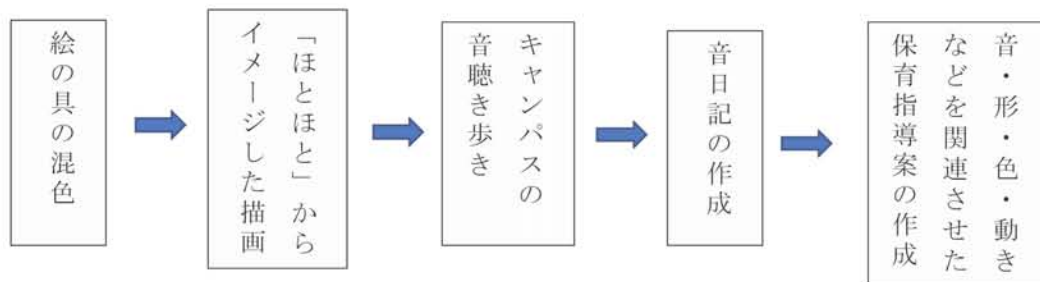


図7 描画から指導案作成に至る授業の流れ

##### ① 学生は2つの授業体験からどのような気づきや学びを得たか

表5は「児童図工 I」での描画体験から保育指導案の作成に至る過程における数名の学生の気づきや学びをまとめたものである。

学生Aは、「ほとほと」の音から広がるイメージを「お父さんが家族を起こさないようにそーっと帰ってきた時の雨粒の落ちる音」と捉え、「おとうさんの顔の部分の色が濃すぎると表情が見えにくくなってしまうため、淡い色で塗るよう心がけた。また、この絵を見た人に、「ほとほと」がおとうさんから落ちる雨粒の音だと伝わるよう、水滴の色はあえてはっきりとした色を使うよう工夫した」と述べている。描画体験から得た「雨は降り方やどんなものに当たるかによって音がかなり変わり、それを表現する言葉も変わってくる」という気づきと、音聴き体験での「雨粒が当たる場所によって音が変わったり、人に

よって足音が変わるのも面白いと思った」という記述からは、A が「雨の音」を手掛かりにして2つの授業を関連付けていることが見て取れる。

学生 B は「ほとほと」の音から「お母さんが家族のために温かいスープを煮込む音」というイメージを広げ、「柔らかい色合いを意識して、自然な湯気の流れが出るように周りの背景に合うようにぼかすように描いた。空や草木は単色ではなく、緑・黄・茶など何種類も使用することで、森の自然な色合いが表現されるように混色した」と工夫点を述べている。「ほとほと」の音に柔らかな質感や色を充分に感じとった B は、メロディのある楽音ばかりでなく日常の中の音にも意識が向けられ、形や色、空気感までもが繋がるようになったと語っている。授業体験を通して B は音に対する自己のイメージや感覚についての気づきを得たといえるだろう。

学生 C は「ほとほと」の音に柔らかさや優しさを感じ、描画ではその光や風を表現するために絵の具を溶く水量やぼかしの技法、樹木の1本1本への微妙な色彩の変化に苦心したことを述べている。描画体験から得た音への気づきの欄に述べられている「音が聞こえないものでも、想像して音を感じるようになった」ことは、音聴き歩きで述べられた「③無音だと思っていたものでも、よく耳を澄ますと音が聞こえてくるものがある」という気づきに繋がり、C の中で2つの授業体験が確かに関連づけられていることが読み取れる。

学生 D には C と同様な状況が伺えた。D も「ほとほと」の音から優しさ、柔らかさや温かさなど質感や温感に繋がる感覚をもち、そこから真っ白な鳥の羽音や、その羽ばたきが運ぶ目には見えない優しい風を描画に表現しようとしている。それを実現するために明るい色から暗い色に移るときのグラデーションに気を配り、混色に黒を避け、紺を代替したことなどが述べられている。またこの題材に続いて受講した『かっきくけっこ』の50音の描画にも触れ、日常の音を表すオノマトペの感受性にも変化がおこったことを感じ取っている。

表5 描画から保育指導案作成の過程での学生の気づきと学び

「ほとほと」の音から広がるイメージ	「ほとほと」のオノマトペからイメージした描画	「描画」の体験から得た自然の音や日常音への気づき
<p><b>学生 A:</b>お父さんが家族を起こさないようにそーっと帰ってきた時の雨粒の落ちる音</p>		<p>今まで聞こえていなかった小さな音に注意を払い、この音はどんなオノマトペで表現できるかなと考えるようになった。特に、<u>雨は降り方やどんなものに当たるかによって音がかなり変わり、それを表現する言葉も変わってくることに気づいた。</u></p>



<p>◎「音聴き歩き」と「音日記」の体験から得た気づき</p>	<p>普段全く聴こえていなかった小さな音がたくさん聴こえてきて驚いた。落ち葉が転がるかすかな自然音、自動ドアが人を感知する小さな機械音などに意識が向いた私は人の足音がとても印象に残った。普段はヒールなどを履いている人の音は耳に入ってくるが、スニーカーの音などはあまり気にならなかった。しかし、今回よく耳を澄ませて聞いてみると、歩き方や履いている靴の種類によってまったく音が違うことが分かった。同じような音でも耳を澄ませて聞くと違うことが分かり、音の面白さを感じる事ができた。</p> <p>音日記では普段の生活音に耳を傾けて過ごした。こんなにもたくさんの音の中で生活しているのだと改めて感じた。<u>雨粒が当たる場所によって音が変わったり</u>、人によって足音が変わるのも面白いと思った。音について学んだが、聴覚だけでなく、嗅覚、味覚、視覚など様々な感覚でその音の良さや悪さが惹き立っていることを学んだ。また、音の感じ方は心の余裕によっても変わってくることを学んだ。心に余裕があるときは音に関心が持てる。鳥の鳴き声にしても、穏やかな気持ちで聞くことができる。しかし、余裕がないと鳴き声さえ気づかない。物事に追われると、音までも遮断してしまうのではないだろうか。今回、音について学んでみて音の広がりを感じる事ができた。音は身近なものであるからこそ生活環境など、たくさんのことが分かるのだと思えた。もっと音について学んでみたいと感じた。</p>	
<p>「ほとんど」の音から広がるイメージ</p>	<p>「ほとんど」のオノマトペからイメージした描画</p>	<p>「描画」の体験から得た自然の音や日常音への気づき</p>
<p>学生 B:お母さんが家族のために温かいスープを煮込む音</p>		<p>今までは楽器の音のみに興味を持っていたメロディを感じていた。しかし制作を通して、<u>音に色を感じたり、柔らかな音はぼかした透明感のある雰囲気を感じたり、日常の中に色が見えるようになってきた</u>。形は多くは浮かばないが、ギザギザや丸など抽象的な形をイメージするようになった。日常の生活がより色鮮やかに豊かになったと感じる。</p>
<p>◎「音聴き歩き」と「音日記」の体験から得た気づき</p>	<p>音聴き歩きや音日記をつけて、日常にあふれる音に目を向けることで気づきがたくさん得られた。水の流れる音でも、水道から流れる音と川から流れる音では全く違って聴こえるし、耳を澄ませると多くの発見があった。何気ない音でも音の変化があったり、私たちは音に囲まれて生活していることが改めて分かった。普段はイヤホンつけて街を歩くことも多いが、自然の音を聴くと落ち着いた気分になり、自然の中にある音にはリラックス作用があると実感した。今まで、風の吹く音は「ビュービュー」、鳩は「ポッポ」など思い込んでいた音も、よく聴くと全く違うように聴こえ、その音をオノマトペとして表現することの楽しさを味わえた。そして音の表現の仕方は自由で、正解も不正解もないものだと分かった。だからこそ、子どもたちと関わる時は固定観念を押し付けることなく、子どもたちが感じ取ったものを大切にしたい。</p>	

「ほとほと」の音から広がるイメージ	「ほとほと」のオノマトペからイメージした描画	「描画」の体験から得た自然の音や日常音への気づき
<p>学生 C: 月の光が柔らかく夜道を照らしている。木の葉が風で静かに舞っている</p>		<p>自分の身の周りにある日常生活で聞こえる音や雨の音や風で草木が揺れる音などの自然の音を楽しむようになった。また、暑さやそよ風などそれ自体からは音が聞こえないものでも、想像して音を感じるようになった。</p>
<p>◎「音聴き歩き」と「音日記」の体験から得た気づき</p>	<p>普段あまり意識して聴いてこなかった日常生活の音と、音聴き歩きや音日記を通して改めて向き合うことで、私たちは普段、こんなにもたくさんの音に囲まれて過ごしているということに気づかされた。私はこの活動を通して、次の3つに気づいた。①同じ種類の音でも天気や場所、時間、状況などによって変化する。例えば、「足音」では平らな道では「スザッスザッ」と聞こえていたのが、女坂などの坂道では「ザッザッ」と聞こえた。普段なら「足音」、「鳥の鳴き声」、「工事の音」、「車が走る音」など一括りにしてしまう音でも、丁寧に聴けばこんなにも違う音に聞こえるのだと感じた。②もともとあるオノマトペを意識せず、自分の聞いた通りの音を表現することで、後で文字を見たときにより鮮明にそのときの情景や様子を思い浮かべることができる。③無音だと思っていたものでも、よく耳を澄ますと音が聞こえてくるものがある。例えば、自動ドアはよく耳を澄ますと「ウーン」という音が聞こえた。</p> <p>本日の授業でたくさんの人の音日記を見て、足音や雨・風の音、鳥の鳴き声などといった、だれもが耳にする音でも人によって聞き取り方が違うということを知ることができ、とても面白かった。私はこの授業を通して、より音の表現の幅が広がったように感じた。</p>	
「ほとほと」の音から広がるイメージ	「ほとほと」のオノマトペからイメージした描画	「描画」の体験から得た自然の音や日常音への気づき
<p>学生 D: 優しくて柔らかくふんわり温かい感じ。真っ白な鳥の羽ばたきが運ぶ優しい風のイメージ</p>		<p>日常の様々な擬音なども自分で考えてみた。たとえばカーテンを開く音にも「さっ」とか「ざっ」とか、開ける速さによって違ったり、「さーっ」とか横幅によっても重さによっても違うことを感じたりした。「かっきくけっこ」の行の音のイメージなども以前は浮かびづらかったと思うが、普段から意識してみることでイメージがしやすかった。また、音のイメージを表すために、暗い色と明るい色の狭間の色を水分量などで調節し、ぼやけるような感じにしてみた。全体的に優しく温かく柔らかい感じにするように黒ではなく紺を使ったりした。</p>

<p>◎「音聴き歩き」と「音日記」の体験から得た気づき</p>	<p>普段何気なく生活している中で「音」はたくさんあって、このように調べる機会がなければ、ほとんど聞き落としていることに気づいた。また、聞こえない音の中には自分にとって都合のいいものを聞き分け、わざと「聞こえなくしている音」もあるのだということに気づいた。すべての音が聞こえてしまうと逆にストレスになるかもしれないが、普段聞き逃している音の中には逃してしまうのがもったいないほどの美しいものもあり、そのような音に気づくことができて良かった。また、海外の人に日本の擬音語はとても面白いと言われたことがあるが、本当にそうだと感じた。聞こえてきた音を擬音語にすることは意外に難しく、ひらがなだけでは表せない音もあってもどかしいと感じることもあったが、とても面白く感じた。</p> <p>普段はよくイヤフォンで音楽を聴いているが、遠くで聞こえる人のしゃべり声、くしゃみの音や鳥のさえずりなどは完成された音楽よりも愛おしくて、全て遮断してしまうのはもったいないと感じた。耳にはイヤフォン、目線はスマホ。現代の生活は視覚的にも聴覚的にもとても狭くなっていると改めて感じた。イヤフォンを外して手の中の小さな四角形の中から目を上げたら、とても開放的で、一日がすがすがしかった。もちろんすべてが美しいものばかりではないが、たまにはイヤフォンを外して日常の音に触れ、たくさんの発見を楽しもうと思った。</p> <p>保育者として子どもに視野を広く、興味を持ってもらうよう促すためには、まず自分たちがそのように行動することが大切だと感じた。子どもと同じくらいの好奇心を持ち、音や自然、風景など日常の様々なことに関心を寄せ、自分の肌で感じ五感をいっぱい使って生活してみることで少しはこどもたちにとって「おもしろい先生」になれるのではないだろうか。</p>
---------------------------------	---

## ② 学生は2つの授業を関連付けて受講していたか

学生のワークシートには、2つの授業を関連づけて受講をしている記述が見られた。学生Eは「雨の音については以前から表し方がたくさんあり、前期の児童図工の講義で学んだこともあって、音を聞く前から何種類かオノマトペの表し方があることを知っていた」と述べており、「雨の音」が関連付けのきっかけとなっている。また学生Fは「保育内容演習（表現）」の「オノマトペ・音象徴」を題材にした授業<sup>4)</sup>で、「前期の図工で平仮名から絵を描く課題も、これを利用しているのだと感じた。音象徴という言葉は初めて聞いたが、私は今日の授業がとても楽しくてこの分野に興味があると思った」と記述している。他にも「今日の授業では前期の児童図工Iで出された『○行を絵に表す』という課題を思い出した」や、「私の中で別々に捉えていた2つの授業が重なってきたように感じた」などの記述も見られ、それぞれの学生の中で少しずつではあるが基礎的な知識や技能を統合して、表現活動を捉えようとする様子が読み取れる。2章で示したように児童学科で学ぶことのできる表現領域の科目は4年間にわたり複数開講されているので、学生の中でそれらが繋がり総合的な実践力が養われるよう、さらなる教員同士の共同、連携が求められる。

### ③描画や音聴きの授業体験を踏まえて、どのような保育指導案が作成されたか

前項では、2つの授業内容を関連付けて受講している学生の意識が認められた。筆者らが科目間に共通する「音環境」「オノマトペ」などの題材に関して連携できるように計画した音・形・色を関連づけた表現プログラムは、学生たちにどのような力をはぐくむことができたであろうか。ここでは、学生が作成した保育指導案を元に探っていきたい。

表6は、学生Gが作成した指導案の抜粋である。紙幅の都合ですべてを掲載できないが、Gが記述したワークシート等を合わせて指導案をみていくと、描画体験で「じゃあ〇〇はどんな音になるのだろう」と考えを巡らせたり、音聴き歩きの記述にある「私は人の足音がとても印象に残った」「歩き方や履いている靴の種類によってまったく音が違うことが分かった」などに関連させて指導案が作成されたことが理解できる。

表6 学生Gの保育指導案と授業での気づき

学生Gの学びと気づきについて	
	<p>●「ほとほと」の音から広がるイメージ</p> <p>夜の森を何かが見守っているようなイメージが広がった。</p>
	<p>●水彩絵の具の使い方や混色での工夫したこと</p> <p>一番工夫した部分はグラデーションである。明るい感じからだんだん暗くなっていく様子を表現した。また、空を全部同じ色で塗ってしまわず、いろいろな色を混ぜることで雲の感じをイメージした。濃い部分や薄い部分をわざと作ったところも工夫点である。</p>
	<p>●「描画」の体験から得た自然の音や日常音への気づき</p> <p>今回は「ほとほと」という音を考えたが、聞いたことがない音だったのでとても難しかった。考える際に雨だと「ぼたぼた」だし、風だと「ヒューヒュー」だしなあと他の音をたくさん考えてみた。すると、「じゃあ〇〇はどんな音になるのだろう」と<u>自然と考えを巡らせることができた。</u>この絵本では雪の音だったが、今まで雪の音など考えたこともなかった。この制作を通して、音がないようなものの音を考えてみる面白さを感じることができた。</p>



### ●「音聴き歩き」と「音日記」から得た気づき

私は人の足音がとても印象に残った。普段はヒールなどを履いている人の音は耳に入ってくるが、スニーカーの音などはあまり気にならなかった。しかし、今回よく耳を澄ませて聞いてみると、歩き方や履いている靴の種類によってまったく音が違うことが分かった。同じような音でも耳を澄ませて聞くと違うことが分かり、音の面白さを感じることができた。音日記では普段の生活音に耳を傾けて過ごした。こんなにもたくさんの音の中で生活しているのだと改めて感じた。音について学んでみて音の広がりを感じることができた。

### ●音・色・形を関わらせて作成した保育指導案(一部抜粋)

題材名「オノマトペに注目し、音の楽しさを感じよう」

対象：4 歳児

ねらい：・絵本に出てくるオノマトペに注目し、音の楽しさを感じる

・音に注目し、傘を開く音やレインコートを着る音、長靴で歩く音を表現する



◇絵本「あめぼぽぽ」を読む

- ・静かに聞くことができるように言葉かけをする
- ・集中できない子どもには他の子どもに配慮しながら見守る（言葉かけをし、絵本に興味を持たせる）
- ・子どもたちが声を出しているときはゆっくり読む

◇絵本についていくつか質問をする

- ・「雨の音ってどんな音？」「スリッパの音はどんな音だった？」「お砂場を歩いた音はどんな音だっけ？」など、絵本に出てきた音に注目するように促す
- ・絵本に出てきた音を口に出して、面白さをみんなで共有する
- ・みんなが一斉に言葉を発して聞き取れない場合は、指名して発表してもらう
- ・意見を伝えたそうにしている子どもがいれば、意見が言えるように配慮する

◇絵本の絵からレインコートや傘、長靴など、雨の日の服装に触れる

- ・保育者は傘をさす音「ボン」、雨が降る音「さあさあ」、レインコートを着る音「ばさっ」、長靴で歩く音「びち、ばちゃ、ぼちょ」など実際に動作と声を合わせて見せる

表 7 は、同様に学生 H が作成した指導案の抜粋である。H は生活の中に溢れる音の多様性に耳が開かれ、意識することの大事さに気づいた。また友人の音日記から一人ひとりの音の感受性の違いに改めて興味を持ったようである。

指導案では 3 歳児という発達段階を考慮したうえで、子ども達が唱えやすく好むであろう「ポンポン」という破裂音の繰り返しの楽しさを理解して用いている。音声と描画動作（身体の動き）、色の感受の繋がりがリズムによってより心地よく感じられることを企図して作成されたものである。ともすれば描画と音声表現やリズム活動を個別に扱いがちであったが、二つの授業体験が H の中で自然に繋がってきたと言えるのではないだろうか。

表 7 学生 H の学びと気づき

学生 H の学びと気づきについて	
	<p>●「ほとほと」の音から広がるイメージ</p> <p>森の中で暗い様子。アライグマの子どもたちが眠る時間ということから、眠っているミミズクの寝息を連想した。</p>
	<p>●水彩絵の具の使い方や混色での工夫したこと</p> <p>絵本の絵が、ふんわりとした優しい絵だったので、水を多く含んで絵本の絵に近づくように工夫した。</p>
	<p>●「描画」の体験から得た自然の音や日常音への気づき</p> <p>生活の中で耳にする音、車や洗濯機など、知っている物事の音でも意識すると、違う音のように聞こえることがある。様々な音の予想をするが楽しく感じられるようになった。</p>
<p>●「音聴き歩き」と「音日記」から得た気づき</p> <p>生活する中で一日中、このように意識して音に耳を傾けたことは初めだった。いつもと同じ一日でも、聞こえる音がとてもたくさんあることに驚いた。20 年近く生きてきて、たくさんの音を聴いてきたと思っているが、自分が思っているよりももっとたくさんの音が存在していると感じた。普段の生活で音に意識を向けることは、めったにない。無意識のうちに耳にしている音も思い出すことは難しいと思う。</p> <p>友達の音日記を見て、自分では気づかなかった音に気づくことができたり、同じ音でも少し違って聴こえていたりして、興味深く思った。</p>	
<p>●音・色・形を関わらせて作成した保育指導案（一部抜粋）</p> <p>題材名「お花がボンボン」 対象：3 歳児</p> <p>ねらい：・「ボンボンボン」というリズムに合わせて絵を描くことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな色で好きな形で花を色づけることを楽しむ</li> <li>・リズムに合わせた動きができる</li> <li>・絵本に出てくるオノマトペに注目し、音の楽しさを感じる</li> </ul> <p>◇「どんないろがすき」を歌って色について関心を向けた状態で活動に移っていく</p> <p>◇混雑しないように順番に絵具セットを取りに行くように声掛けをする</p> <p>◇画用紙とタンポを見せながら「今日はみんなの好きな色でお花を完成させよう」と活動を説明する</p> <p>◇タンポの使い方の説明をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これに色を付けて、ボンボンしてお花を咲かせてね」と子どもの反応を見ながら話す</li> </ul> <p>◇画用紙（花の茎の部分だけ印刷されたもの）とタンポを一人一つずつ配る</p> <p>◇「ボンボンのリズムに合わせてみんなで色つけていこう」と説明して、子どもたちが準備できたら「せ</p>	

一の」で合わせて花びらを付けていく

◇「ボンボンボン」と言いながら、子どもたちが花びらを作っている様子を見る

◇「ボンボンボン」のリズムを速くする、遅くするなどリズムに変化をつける

◇みんなのお花が出来上がったことを確認する

◇様々なお花の色や形に注目して、「上手にできたね」と褒める

◇子どもたちの作品を壁に飾って、教室をお花畑にする

## 6. 今後の課題

本稿では幼稚園免許及び保育士資格必修科目である2つの授業の繋がりが学生の中でどのように形成されていくのか、学生の描画作品と授業後のアンケート、振り返りのワークシートと保育指導案などを用いて考察を試みてきた。作成された指導案には体験した授業内容を表現活動へ統合しようと試みる内容も見られたが、未熟なものも多い状況である。学生が複数の授業経験を重ねながら地道に活動を構成する力を身につけてゆく成長過程を見守りながら、今後も表現教育のプログラム内容を検討していきたい。

## 付記

※本研究は JSPS（課題番号 17K04889 代表者：岡林典子「協同性の育ちに着目した幼小接続における音楽教育のプログラム開発」）の成果の一部である。

## 注

1) 智原江美・下口美帆「クロスカリキュラムによる領域「表現」の総合的実践力習得のための試み」『京都光華女子大学短期大学部研究紀要』(51), 2013, pp. 85-97/麓洋介・水谷誠孝「『描画的な音楽表現』による教育プログラム—サウンド・アートの視点から音楽を創作する試み」『愛知教育大学 幼児教育研究』第 18 号, 2015, pp. 99-106 などが挙げられる。

2) 智原江美ほか「アンケート調査からみた保育者養成校における総合的な表現活動に関する授業の実施状況」『京都光華女子大学短期大学部研究紀要』(54), 2016, pp. 197-208

3) 岡林典子・山野てるひ「養成課程における音・形・色を関連づける表現プログラムの研究—日本語と和楽器を用いて—」『京都女子大学 教職支援センター研究紀要』第 2 号, 2020, pp. 1-14

4) 音象徴の説明資料は Ramachandran, V. & Hubbard, E. Synaesthesia – A window into perception, thought and Language. Journal of Consciousness Studies, 2001.8(12):3-34